

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：12301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23730459

研究課題名(和文) 組織における会計的知識基盤の探求

研究課題名(英文) In Search of an Accounting Knowledge in the Firm

研究代表者

新井 康平 (Arai, Kohei)

群馬大学・社会情報学部・准教授

研究者番号：30550313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：会計知識が果たす役割について、文献調査、サーベイ調査、実験室実験などによって検証を行った。その結果、発見した事実は次のとおりである。1つ目は、会計知識の有無が意思決定を洗練させることがあるということである。2つ目は、会計知識が順序効果などのバイアスを引き起こすこともある。3つ目は、このような機能と逆機能があるが、会計知識は正の経済的帰結をもたらすこと、である。

研究成果の概要(英文)：I have studied the role of accounting knowledge, by a literature review, survey research, and laboratory experiments. As a result, I found three important facts. First, there is a presence of accounting knowledge to refine the decision making. Second, sometimes accounting knowledge causes bias, such as order effect. Third, accounting knowledge bring positive economic consequences, even though the accounting knowledge have both a function and a dysfunction.

研究分野：会計学

キーワード：管理会計 会計知識 実験室実験 サーベイ調査

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の背景は、次の2点である。まずは、会計教育活動から派生した背景なのだが、IT技術などによってかわれつつある会計計算の技法(簿記や原価計算など)の学習がどのような効果を学習者にもたらしているのかについて、経験的な証拠が不足しているという背景である。もう一つが、中小企業などを対象とした会計システムの導入研究における、会計知識の導入トリガーとしての役割である(新井・北田, 2010)。これらの背景から、会計知識が果たす役割について、詳細な研究の必要性が確認され、本研究が開始された。

新井康平, 北田皓嗣. (2010). 「実務家の視点」に基づく管理会計研究方法の展望. *Hirao School of Management review*, 1, 1-16.

### 2. 研究の目的

研究の目的は、次の2点である。

1点目は、内部妥当性に焦点をあてたものであり、会計知識が意思決定に及ぼす影響を明らかにすることである。これは、様々な意思決定下における会計情報の役割を明らかにすることで、会計知識がどのような状況下で、どのように意思決定を洗練させる、あるいはバイアスをもたらすのかを明らかにすることである。

2点目は、外部妥当性に焦点をあてたものであり、この会計知識が従業員へどのような経済的帰結をもたらすのかを明らかにすることである。これは、会計知識が、結局、個人に対してどのように帰結するのか、あるいはその帰結の効果はどれほどなのかを検証するためのものである。

### 3. 研究の方法

前者の研究目的を果たすために、実験経済学的な複数の実験室実験を実施した。具体的には、福島・妹尾・新井(2013)、佐久間・新井・妹尾・末松(2014)、妹尾・新井・福島(2015)、Nishii, Arai and Senoo(2015)などにまとめられているとおりである。

福島・妹尾・新井(2013)は会計知識の正の影響を検証するための実験室実験である。具体的には、学部生を対象としたボーナス配分実験を行い、会計知識と業績評価の相対性の検証を行った。佐久間・新井・妹尾・末松(2014)は、投資評価を実施する際の会計情報の役割を探求した実験室実験である。ここでは、財務情報の役割が、非財務情報に対してどれだけ効果のあるのかを検証しようとしている。妹尾・新井・福島(2015)は、福島・妹尾・新井(2013)のデータを転用し、順序効果という意思決定バイアスが会計知識とどのように関係しているのかを明らかにする

ためのものである。Nishii, Arai and Senoo(2015)は、会計知識の獲得初期段階における個人の特性の影響を確認するために教室をフィールドとしたサーベイ調査である。学部生を対象に、ビッグ・ファイブ型の性格で特性し、簿記の成績との関連を把握するものである。

後者の会計知識の経済的帰結を明らかにするという研究目的を果たすために、新井・服部(2014)である。新井・服部(2014)は、エビデンス・レベルが低いという問題があるものの、1,034名の企業に勤務する多様な実務家を対象としたウェブ・サーベイ調査を行い、会計知識と年収の関係を明らかにした。

### 4. 研究成果

福島・妹尾・新井(2013)は、「業績報告の形式は、その情報を踏まえた意思決定者にどのような影響をあたえるのか」という問題意識のもとに実施された実験室実験である。バランス・スコアカードなどの非財務情報を活用したマネジメント・システムの登場以降、提供する情報およびその形式が意思決定に与える影響は、一定の研究蓄積をえている。例えば、財務-非財務指標間の因果関係の明示が意思決定を洗練させること、例え誤った因果関係を明示ししたとしても因果関係を明示しない場合よりも意思決定が洗練されること、そして非財務情報の強調は場合によっては行き過ぎた資源配分を誘発すること、などが確認されてきた。対して、本研究は、このような研究の系譜を踏まえて、残された課題である「非財務情報による因果関係の明示は、財務情報よりも常に有効なのか」という点に取り組む。具体的には、先行研究との継続性も考慮し、また専門性バイアスを避けるため、神戸大学経営学部などの学部生を対象とした実験室実験を行い、この問題に取り組むこととした。実験の結果、1)発生主義的な費用配分を行わない場合、資源配分が妥当になるまでに相対的に時間がかかること、2)非財務情報ではなく、減価償却などの方法を用いて財務情報で因果関係を明示した場合でも、妥当な資源配分が迅速に達成されること、が示された。これは、業績報告形式において、非財務情報が常に有効というよりは、因果関係の明示こそが重要な役割を果たしていることの証左となる。この結果の解釈は、会計知識がないと自信をもって評価が行えない、ということになるだろう。しかしながら、同じ実験データを別の角度から再分析した妹尾・新井・福島(2015)では、会計知識が高い場合、業績の提示順序によるバイアスが働きやすいなど、逆機能的な側面の存在も指摘した。

佐久間・新井・妹尾・末松(2014)は、財務情報が非財務情報に比べて因果関係を明示する役割が小さく、これは間接的に財務情報の理解のために会計知識の役割が必要とな

る点を示唆した。この研究では、業績報告の形式は情報利用者の意思決定にどのような影響をあたえるのかを検討した。バランス・スコアカードなどの非財務情報を活用したマネジメント・システムの登場以降、提供する情報やその形式が意思決定に与える影響は、一定の研究蓄積をえている。先行研究では、先行指標である非財務情報を用いることで、意思決定から財務業績に至る因果関係を認識しやすくなり、結果として意思決定が洗練されることが予測されてきた。この予測をもとに、財務・非財務指標間の因果関係の明示が意思決定を洗練させること、誤った因果関係でもそれを明示しない場合よりも意思決定が洗練されること、定量的な非財務情報による因果関係の明示は、行き過ぎた資源配分を誘発する場合があることなどが確認されてきた。本調査はこのような研究を踏まえて、「非財務情報による因果関係の明示は、財務情報よりも常に有効なのか」という残された課題に取り組む。具体的には、先行研究との継続性も考慮し、また専門性バイアスを避けるため、神戸大学経営学部などの学部生を対象とした実験室実験を行う。実験の結果、1) 発生主義的な費用配分を行わない場合、資源配分が妥当になるまでに相対的に時間がかかること、2) 非財務情報ではなく、減価償却などの方法を用いて財務情報で因果関係を明示した場合でも、妥当な資源配分が迅速に達成されることが示された。これは意思決定を改善する上で重要な点は、非財務情報か財務情報かという表示形式の違いよりも、因果関係の明示それ自体であることの証左となる。

Nishii, Arai and Senoo(2015)では、会計知識の受容における特性を調査し、少なくとも日本においては性格のような個人属性が簿記のような会計知識の獲得に影響する部分は僅かであり、会計知識は多くの学生・従業員に広く門戸を開いている可能性を示した。具体的な分析結果は、次のとおりとなった。まず、統制変数を含めない分析モデルの結果から、性格と簿記の成績には有意な関係が存在した。まず、情緒不安定ではないほど簿記の成績が良くなる。また、開放的ではないほうが簿記の成績が良くなる。そして、調和的ではないほうが簿記の成績が良くなることを示された。しかしながら、統制変数を含めた場合、これらの結果についてはほとんどが有意ではなくなる。統制変数を含めたモデルの結果によれば、開放的ではないほど簿記の成績が良くなる、という関係以外に有意な関係はみとれない。しかし、統制変数は全て有意に影響している。さらには変数選択の観点から、モデル間のAIC(赤池情報量基準)を比較した場合、性格変数と統制変数からなるモデルのほうが優れているといえる。これら結果から、性格特性がダブルスクールなどの選択を促し、結果として簿記の成績が向上するという間接的な因果関係を想定す

ることが出来るだろう。つまり、性格と簿記の成績には、知性開放性を除けば、間接的な因果関係のみが存在するといえるだろう。

そして、新井・服部(2014)は、会計情報の利用者が有する会計知識が、個人にどのような帰結をもたらすのかを検証したものである。これまで、会計知識が意思決定に与える影響については、実験室実験によって検証が進められてきた。その結果、会計知識が様々な意思決定に影響をあたえることについては高い内的妥当性を確認してきたのだが、対して、会計知識が一般的にどのような個人的帰結をもたらすのかについては検証が行われてこなかった。そこで、様々な職種・業種・年齢の実務家を対象としたサーベイ調査を実施した。その結果、職種・業種・年齢などの影響をコントロールしたうえでなお、会計知識は報酬を増加させる要因となっていたことが明らかとなった。また、経営学という他の知識との弁別妥当性についても確認し、そのような知識の影響を統制した上でなお、会計知識の報酬への影響がみられることが明らかとなった。

このような一連の研究からわかったことは、まとめると次の3点になるだろう。

1. 会計知識があるとコストマネジメントや投資決定、業績評価上良い決定ができる
2. しかし、場合によっては会計知識が逆機能的なバイアスをもたらす
3. 会計知識による機能がバイアスによる逆機能を上回っているため、結果として会計知識が報酬に正の影響を与える

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

新井康平、梶原武久、楨下伸一郎。(2012). スタートアップ企業における予算管理システムの有用性. 原価計算研究, 36(1), 58-67 (査読有).

福嶋誠宣、米満洋己、新井康平、梶原武久。(2013). 経営計画が企業業績に与える影響. 管理会計学, 21(2), 3-21 (査読有).

北林孝顕、藤原靖也、福嶋誠宣、新井康平。(2013). 管理会計研究のエビデンスを統合する: メタ分析の可能性. 原価計算研究, 37(1), 107-116 (査読有).

福島一矩、妹尾剛好、新井康平。(2013). 業績報告形式が意思決定に与える影響: ミニプロフィットセンターに関する実験研究. 会計プロGRESS, (14), 40-53 (査読有).

新井康平、福嶋誠宣。(2013). CVP分析に基づく利益予測モデルの経験的検証. 会計プロGRESS, (14), 1-13 (査読有).

新井康平, 服部泰宏. (2014). 経営学に関する宣言的知識: 普及状況の実態調査. 日本情報経営学会誌, 34(2), 40-50 (査読無, 招待論文).

福嶋誠宣, 新井康平, 松尾貴巳. (2014). 自由裁量費のコスト・ビヘイビアが CVP 分析に与える影響: 回帰分析による固定費推定の問題. 会計プロGRESS, (15), 26-37 (査読有).

佐久間智広, 新井康平, 妹尾剛好, 末松栄一郎. (2015). 因果関係を明示する業績報告形式が資源配分的意思決定に与える影響: 実験室実験. 原価計算研究, 39(1), 76-85 (査読有).

妹尾剛好, 新井康平, 福島一矩. (2015). 会計情報を用いた主観的な報酬決定における情報順序効果. 経理研究, (58), 106-116 (査読有).

Nishii, Takeshi and Arai, Kohei and Senoo, Takeyoshi. (2015). An Empirical Study of the Effect of Personality on Accounting Knowledge in Japan (February 25, 2015). Available at SSRN: <http://ssrn.com/abstract=2569573> (査読無)

〔学会発表〕(計 7 件)

新井康平, 福嶋誠宣. (2012/8/31). 利益計画策定のための会計的技法: 経験的検証, 日本会計研究学会第 71 回全国大会, 於: 一橋大学.

福島一矩, 妹尾剛好, 新井康平. (2012/8/31). 業績報告形式が意思決定に与える影響: 実験的証拠, 日本会計研究学会第 71 回全国大会, 於: 一橋大学.

北林孝顕, 藤原靖也, 福嶋誠宣, 新井康平. (2012/9/8). 管理会計研究のエビデンスを統合する: メタ分析の可能性, 日本原価計算研究学会第 38 回全国大会, 於: 横浜国立大学.

新井康平, 福島一矩, 妹尾剛好. (2013/9/15). 報酬決定における順序効果, 日本管理会計学会第 2013 年度全国大会, 於: 立命館大学.

新井康平, 福嶋誠宣, 松尾貴巳. (2013/9/6). CVP 分析の実践的利用へ向けて: 集約された会計情報の利用の問題, 日本会計研究学会第 72 回全国大会, 於: 中部大学.

新井康平, 服部泰宏. (2013/5/26). 経営学の普及: その現状と規定要因, 日本情報経営学会第 66 回全国大会, 於: 群馬大学.

新井康平, 服部泰宏. (2014/9/5). 会計知識プレミアム, 日本会計研究学会第 73 回全国大会, 於: 横浜国立大学.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

6. 研究組織

研究代表者

新井 康平(ARAI, Kohei)

群馬大学・社会情報学部・准教授

研究者番号: 30550313